

博物館だより

No.197



令和5年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー							
2023年 4月							
日	月	火	水	木	金	土	
26	27	28	29	30	31	1	
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	1	2	3	4	5	6	

休館日 ※情報はR5.3.20現在

◆博物館NEWS

◆講座・教室・催し物ガイド

4月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
4月1日(土) 9時30分～
- 【古典かな講座】
4月15日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】
4月22日(土) 10時～
- 【古文書講座】
4月29日(土) 10時～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

博物館で「学習」始めませんか？

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館へお問合せ下さい！

★博物館友の会

バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

★文化遺産ボランティア(豊み隊)養成講座

町の宝を三つのアクション①ガイド(案内)②ガード(管理)③ワーク(調査)でサポートするスタッフを募集・養成する講座です。

★博物館歴史講座

館や町内外の文化遺産を題材に、町の歴史と文化を学びます。4教室ありますが、掛け持ちやお試しも可能です(詳細下記)。



歴史を学ぼう！文化に触れよう！ 令和5年度 博物館歴史講座 受講生募集！

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩紀行講座」「古典かな講座」「古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。

受講を希望される方はお気軽に博物館までお問合せください(継続して受講を希望される方の申込みは不要です)。

なお、各講座では毎回、資料代として200円が必要ですのでご了承ください。

講座内容のご紹介

【漢詩紀行講座】

講師 宮原加代子先生

●内容 郷土の先人の漢詩を主に、唐詩なども鑑賞します。あわせて漢詩の基礎も学びますので、初心者の参加も歓迎です。

辞書・筆記用具をご持参下さい。

●実施日 毎月第1土曜日

午前9時30分～

【古典かな講座】

講師 宮原加代子先生

●内容 美しい日本のことばや風習を、古典文学の中に求め、鑑賞と手習いをします。初めての方も歓迎です。

筆記用具・用紙などをご持参下さい。

●実施日 毎月第3土曜日

午前9時30分～

【古文書講座】

講師 川本英紀先生

●内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関する古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。

●実施日 毎月第2土曜日

午前10時～

【みやこ学講座】

講師 当館学芸員

●内容 「みやこ町と周辺の自然と文化遺産」をテーマに、ゆかりの話題を交え関連学習を進めます。郷土の歴史についての講義はもちろん、実際に現地(遺跡やゆかりの地など)を歩き・見て・触れる体験型学習も行います。

●実施日 毎月第4土曜日

午前10時～

*見学会等は開催の都度連絡します。



▲参考:みやこ学講座における現地学習の様子
(写真は学習テーマに因む史跡・神楽城を遠望する様子)

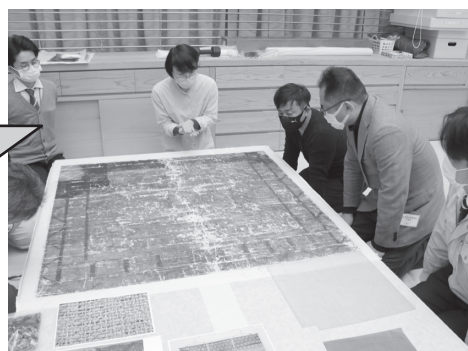
3月の業務日誌から

3月1日(水)、九州国立博物館で曼陀羅寺(勝山大久保)所蔵の仏画「当麻曼荼羅図」の立会検査が行われました。傷みが激しい本仏画は、2年がかりで保存修理しますが、年度末を迎え、初年次工程を竣工確認したものです。

3月12日(日)、文化遺産ボランティア(豊み隊!)の最終例会が行われました。年間活動を総括し、課題や展望について意見交換しました。自由討議では自作のガイド資料のお披露目も行われ、充実したまとめの会となりました。



▲会では年間の取組について気軽な意見交換が行われました



▲博物館職員も立会ってクリーニングや補強の成果を確認しました

みやこの歴史発見伝 156

よしだますぞう 吉田増蔵(その十二)

— 吉田兄弟の功績① —

先人顕彰マンガ「吉田兄弟物語」

みやこ町は、令和4年度、B&G財団の「ふるさとゆかりの偉人マンガの製作と活用事業」の助成

により先人の顕彰マンガを製作しました。この事業は、地域のために貢献した人物や、教科書には掲載されていない郷土ゆかりの先人を対象にマンガの製作を行い、これを活用した郷土学習を通して、地域の次世代を担う児童・生徒に郷土愛を育むことを目的としたものです。みやこ町では現在、夏目漱石の門下で、彼の小説「三四郎」のモデルになった小宮豊隆を

16年目の「昭和の日」

4月29日は「昭和の日」です。この日は、昭和24年(1949)から昭和63年(1988)まで「天皇誕生日」、昭和天皇崩御後の平成元年(1989)から旧3町が合併し、みやこ町が発足した平成18年(2006)年まで「みどり

の日」と呼ばれていきましたが、この翌年に施行された「改正祝日法」により、昭和天皇の誕生日である同日が「昭和の日」として新設されました。その趣旨として「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み国の将来に思いをいたす」とあり、この「昭和」という時代を的確に表現したものとなっています。

世代を超えた「昭和レトロ」ブーム
元号でその時代を表現した言葉に「大正モダン」、「昭和レトロ」があります。一昨年、10代から20代の若い人々を対象に行った「インターネットの検索ワード」調査の結果、この「昭和レトロ」という言葉が上位にランキングされました。現在、これらの若者を中心に、昭和の歌謡曲に合わせたダンス動画や「レトロ自販機」を巡る動画など「昭和」に関連した動画の増加傾向がみられます。今年「昭和」改元から97年、その終焉から34年を迎えますが「昭和」を知らない多くの若者が、親世代を超え、祖父母世代の「アナログ文化」を楽しんでいる姿をみると、「昭和への「憧れ」のようなものを感じることができます。

この兄弟の生涯や功績について、改めてご紹介します。

この元号「昭和」を考案した人物は、みやこ町勝山上田出身の「吉田増蔵」です。彼は森鷗外に漢学の才能を見込まれ、元号考案に賭ける情熱を託された唯一の人物です。また現在の上皇陛下の「称号・名前」の考案や多数の詔勅など、昭和天皇即位後の皇室に深く関わった人物としても知られています。現在、日本は世界で唯一の元号使用国です。そして元号「昭和」は、世界で最も長く続いた元号に位置付けられています。

若者を中心に広がる「昭和レトロ」ブームの中、改めて「昭和」の原点はみやこ町というメッセージを発する絶好の機会となっています。

マンガで見る増蔵の生涯
吉田増蔵の生涯や功績については、このシリーズを通じて10回にわたってご紹介してきましたが、これらをもとにシナリオを作成し、さらにマンガ化することによって、彼がこの当時、皇室の中核で重要な職務に携わっていたことを改めて確認することができました。今後は、完成したこのマンガを町内の小・中学校の児童・生徒に配布し、この町の先人が国に尽くすため絶大な努力を重ねる姿や、困難を乗り越え大きな仕事を成し遂げたときの感動、そして何よりも、みやこ町出身の人物が活躍したことを誇りに思う児童生徒の「郷土愛」を育む教材となることを期待します。(井上信隆)



完成したみやこ町の先人顕彰マンガ「吉田兄弟物語」

これが現在の「上皇陛下の称号・名前」が決定した瞬間である

「継宮明仁」を構成する「継・明」の漢字は中国の「周易」にある「大人継明照于四方」から引用され、昭和天皇の徳を継承されるようにという願いが込められていた

現在の上皇陛下の「称号・名前」が決定した場面



現在の上皇陛下の「称号・名前」が決定した場面



元号「昭和」発表後の1シーン